
神狼挽歌・真

マッキー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

神狼挽歌・真

【Nコード】

N5177P

【作者名】

マッキー

【あらすじ】

全てを変える為男は神のペットとなり異界に墜ちる。最愛の人と再び共に歩む為

最強ものです。嫌いな方申し訳ありませんが御戻り下さい

異変（前書き）

不定期更新になります。

駄文ですが生暖かく見守ってください。

異変

この物語は神々の庭の異変から始まる。管理者たる神々の世界は安定期に入り創造主たる主神は世界の微調整を行い寛いでいた。しかし気付かない所で異変は始まる。「主よ。緊急事態です！」補佐官にあたる神が異常を訴えにきた。人が住まう世界の異変などは神々にとって些末な事だが、補佐官の慌てぶりを見るとただ事では無いらしい。「珍しい」と呟いた主神は先を促した。

「神狼が… 転生しません。亡骸も消失しました。」確かに異常な事態だ。

神々はそれぞれ管理する事象があり、それらは多岐にわたる。神狼が管理していたのは「権能」人が住まう世界に強力な干渉する為の力である。つまり神狼が消失すると神々は人に大きな干渉を行えない。世界が停滞することになる。主神は一度目を閉じ思索し補佐官に告げた「時と生命、あと因果の管理者に召集を」

すぐ各管理者が主神の召集に応じ集まった。

「時よ、神狼が消失した瞬間を提示してくれ」

時の神が鏡を取り出し、それを主神に渡す。

そこには黒い体毛の巨大な狼が写しだされていた。狼は倒れ伏し躰が灰の様に分解し始めていた。

次に「生命よ、魂は？」主神の質問に生命を管理する神が答える「神狼の魂自体に問題は見つかりません。ただ最近行使した寿命の管理干渉の影響かと推察します。」

「因果よ、どう思う？」主神は因果の管理者に問う「おそらく

神狼の魂が人の魂に結びついたのでは？」そこで主神は疑問を口にする。「しかし魂は巡るはずだ。完全には消失しない。つまり神狼の魂はその辺りに漂っているはずだな。」（何故このようになるとになったのか調べなければ。）そして主神は神狼の魂を探す為その場を後にした。

異変（後書き）

頑張ります

死（前書き）

話が進まない…

死

最後に見たのは彼女の死に際だった。

彼女は幸せだったかは判らない、ただ：私は彼女が居なくなり不幸になった。そして、私から彼女を奪った病魔が、神が憎かった、今でも憎い。たった十五年間しか生かしてくれなかった。

彼女以外のパートナーはいらない。周囲の女が言い寄って来ても突っぱねた。生きたくないから全てを拒否した。ただ彼女に会いたくて…

「おはよう。いや御愁傷様かな。」

なぜか目が覚める感覚がした。しかも頭の中に声が聞こえる。

「まずは、はじめまして。君達の呼ぶところの神だ。」

疑うことも無かった。直感が「これは神だ。」と認識していた。

「私は死んだんだな。」神はその質問に肯定の言葉を発する。「その通り。しかも君の寿命は有り余っている。君は役目を果たさず死んだ、これは重大な違反だ。」

何が違反だ。役目など知るはずが無い。私の怪訝な表情を見たのか神は嘆息する。「人は子を成し輪廻を廻す。君は子孫を残さなかった、つまり君の子供に宿る筈だった魂がうまく輪廻を廻ることができず循環が停滞した。」

だからどうした？私は彼女以外の相手と手を取ることとは絶対ない。たとえ死んだとしても。神は続ける。「君が特定の相手以外を認めないのは調査済みだ。確か：舞という名だったかな？彼女も不憫ではあったが、しかたなかった」

私はただ怒りを込めて「何故？」と問う。

「彼女の前世での寿命が長過ぎた、そのツケを今生で支払ったのだ。故に来世は十分生きることができる。しかし君の死は予定外だ、事情は解るがね。」

そして神は告げる。

「そこでだ。君には今すぐ転生してもらおう。そこで役目を果たしてもらおう。大丈夫だ、安心しろ彼女も一緒だ。」

私の心に歓喜が満ちる。またあの人共に歩む可能性が与えられる。

「だが君は違反を犯した、ペナルティは受けてもらおう。まあペナルティ以上の神様特典が付くんだ。問題ないだろう？」

私はペナルティの内容など気にならない。早く彼女に会い。

「神様特典として君には多彩な能力と向こうの世界で有名な立場を用意しよう。ペナルティは私の求める条件を満たすことで軽減しよう。以上質問は無いかな？後程補足説明は伝える。」

私は首肯し言う「ああ、やってくれ。」

「では来世で役目を果たすことを期待している」

そして私の意識は暗黒へと墜ちていった。

死（後書き）

名前がー！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5177p/>

神狼挽歌・真

2010年12月25日20時58分発行